

2018 年度 センター試験 世界史B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	①の領邦教会制は、ルターの宗教改革により形成されたドイツの制度なので、これは誤文。ビザンツ帝国については、皇帝教皇主義を想起できるようにしておこう。また③のマンサブダール制(官吏俸給制)はムガル帝国のアクバル帝が創始した制度である。
	問4	③の『ローランの歌』はカール大帝の対イスラーム戦が舞台だが、このポイントは頻出なので要注意。同様に、騎士道文学の中で『アーサー王物語』はケルト人の英雄伝説が基であること、『ニーベルンゲン』はブルグント族の伝承が基であることも押さえておきたい。
	問9	aについて。中国王朝公認の正史は、紀伝体で著されるものというポイントを思い出そう。編年体の代表的史書としては司馬光の『資治通鑑』が重要だが、これは正史ではない。また司馬光は古文復興の唐宋八大家には含まれないことも押さえておこう。 bについて。ラシード＝アッディーンはイラン人宰相であったことにも注意しよう。同様に、セルジューク朝で活躍したニザーム＝アルムルクもイラン人宰相であった。
第2問	問1	②について。シク教はヒンドゥー教とイスラーム教を融合したものとされるが、その主神はシヴァやヴィシュヌではなく、すべての宗教の神々を根本では同一のものと主張しているため、一神教的な立場とされている。
	問4	②について。ユダヤ教の戒律主義(律法主義)は、モーセが出エジプトの際に神から授けられたとされる十戒を基に、しだいに細分化されたものである。時系列から考えて、モーセが批判というのは誤りである。
	問8	②について。イスラーム同盟(サレカット＝イスラーム)はインドネシア(ジャワ)で1911年に結成された団体。バングラデシュは、もとはベンガル州東部にあたり、第二次世界大戦後に独立したパキスタンの一部であったが、1971年の第3次印パ戦争を経て独立した国家である。
第3問	問1	②のポタラ宮は、ジャイナ教ではなくチベット仏教の歴代ダライ＝ラマの宮殿・寺院であり、ラサに建てられたもの。 ③のクトゥブ＝ミナール(クトゥブ＝ミナレット)は、インドの奴隷王朝の建国者アイバクがデリーに建てたモスクであり、インド最古の大モスクとされる。ティムール朝の君主ウルグ＝ベクについては、ヘラートからサマルカンドに都を戻したこと、文芸を保護したこと、当時最高水準の天文台を建設させたこと、を押さえておこう。 ④について。ピサ大聖堂の斜塔で物体落下の実験を行ったのは、パスカルではなくガリレオ＝ガリレイ。
	問6	②について。合衆国の武器貸与法は、ローズヴェルト政権がイギリスを支援するため制定したことに目が向きやすいが、以後はイギリス以外の連合国各国へも武器・食糧が送られており、独ソ戦の開始により連合国の一員となったソ連にも適用されている。
	問8	②について。王安石の新法のうち、青苗法が地主の高利貸しを抑制するものであり、市易法が大商人の営利独占を抑制するものだったことも想起できるようにしよう。
	問9	まず、義和団事件の開始(1900)、第一次世界大戦の期間(1914～18)、五・四運動の年号(1919)を思い出そう。その上で、グラフを正しく読み取ること。 aについて。大戦中の1915～16年の間に、合衆国の貿易総額はたしかにイギリスを抜いているので、これは正文。 bについて。1900年と1919年の日本の貿易総額を比較すると、5倍どころか約9倍に伸びている。よってこちらは誤文。

第4問	問 1	bについて。アメリカ大陸先住民の人口を減少させた病気としては、天然痘以外にもはしかなどが挙げられるが、エンコミエンダ制による過酷な労働だけでなくヨーロッパ人がもたらした疫病も人口減少の要因であったことを押さえておけばよい。
	問 4	ルワンダ内戦開始の年号(1990)を記憶していないと解けない問題であり、かなり難易度が高い。
	問 4	同時期に起こったアフリカの内戦としてはソマリア内戦(1988～)もあるが、この 2 つは冷戦終結に前後して起こった、とイメージしておきたい。
	問 5	③のモンゴル人民共和国については、チョイバルサンらにより建国されたこと、世界で 2 番目の社会主義国であることも押さえておこう。
	問 9	戦後の現代史の問題だが、ポイントをきちんと押さえておけば難しくはない。
		①について。ドプチェクはチェコスロヴァキアで“プラハの春”という自由化運動を推進した人物なので、これは誤文。
		②について。アデナウアーは西ドイツの初代首相なので誤文。また彼の政党がキリスト教民主同盟(CDU)であること、“奇跡の復興”と呼ばれる経済成長を達成したことも押さえておこう。
		③について。バグダード条約機構(中東条約機構、METO)は反共軍事同盟なので明らかに誤文だが、この同盟には合衆国は参加していなかったこと、アイゼンハウアー大統領の時代に“巻き返し政策”の一環として結成されたことも重要なポイントである。